

中央大学商学部の学生たちが関東リーグ1部の東京23FCの運営に関わっている。渡辺岳夫教授によるビジネス・チャレンジ演習・実習の19人のゼミ生が春から企画、営業、広報に分かれて活動し、今月9日、東京・江戸川区陸上競技場でのホーム最終戦で5000人の集客に挑む。

東京23FCは2003



フットボールの熱源

年に発足し、地域に根ざして子どもからお年寄りまでが生涯スポーツを楽しめる環境づくりを目指している。中央大の講座は15年に始まり、同年は関東リーグ史上最多の3300人、昨年は2600人を集めた。

イラストレーター「久保誠二郎さんにマスクोटキャラクター「エディ君」を作成してもらい、ポスターなどに使用。印刷会社に飛び込みで営業を掛け、ステッカーシートをつくってもらった。

試合会場ではグルメフ

学生の手で5000人集客へ

エアを開き、Jリーグスタジアムグルメ大賞で殿堂入りしたソーセイジの喜作など人気の8店舗を呼ぶ。今年是有料試合(前売り800円、当日券1000円、高校生以下は無料)となり集客のハードルが高くなったが、学生の意欲は旺盛だ。

9日までに地下鉄、西葛西駅周辺の居酒屋6店で前売り券を提示すると、1杯目が23円になる(何度でも利用可)企画も成立させた。ビジネスマンの帰宅時を狙い、午後6時から西葛西駅前

告知のピラ配りを重ね、浅草サンバカーニバルや地元のサッカー大会でもPR活動を行った。「学生のうちに社会に働き掛けて、自分たちの力で何かを動かす経験をしてみたい。そのとき到来する喜びが社会に出てからエネルギーになる」と渡辺教授は話す。「これもやっちゃおう」と挑んでいく学生は怖い物知らずだ。地域を巻き込みクラブをぐいぐい動かしていくには、このやんちゃさが必要なのではないか。(吉田誠一)